



Supporting the best research in UK

David Sweeney

Executive Chair of Research England

聞き手：

池田 潤（筑波大学学長補佐室長／人文社会系・教授）

Research Excellence Framework (REF) について

聞き手 まずは、自己紹介をしてください。

スウィーニー 私はデヴィッド・スウィーニーといいます。イギリスの機関である Research England の Executive Chair です。スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの組織と共同パートナーシップを組んで、リサーチ・アセスメント・システムを運営しています。また、大学への補助金の資金調達もしています。これはイギリスの最も大きな予算枠のひとつを持っています。そして研究成果をもとに補助金の決定も行っています。

聞き手 ここで質問ですが、最初に Research Excellence Framework (REF) について伺います。REF とは何か、その歴史、目的、手順など、概要についてお話しください。

スウィーニー まず REF の目的としましては、研究評価を行って研究資金の割り当てをします。イギリスは他の国と違って、成果を測ります。それをもとに補助金の額を決定します。それが REF です。これはイギリスの財政委員会や財務省の意向も反映しています。このプログラムは説明責任を伴っています。政府がイギリス国内の大学に対して、効率的に投資をしているかを見ます。これはイギリスの研究の質を全体的に評価するのみならず、大学が研究分野の評価をすることにつながります。大学は自分たち自身の研究をマネジメントします。

基本的に研究評価は、ピアレビューによってなされます。34の分野にわたるパネルの方々が判断をします。1,000人ぐらいの研究者がパネルのメンバーと

してピアレビューをします。対象とする研究の、例えば文献や論文の数を見て、イギリスの研究機関や大学の中でインパクトも含めてしっかりと評価をします。研究の環境や、大学がどのような環境をつくっているのか、といった大学の研究の質が問われます。研究環境も評価の対象です。

聞き手 基本的に査読に基づくと言われていましたが、REFでは定量的ではなく、定性的な評価をしているということですか？

スウィーニー そうです。基本的には定性的です。この研究評価は、1986年に始めました。今は7年に1度、行っています。長いサイクルですが、その間は安定した資金提供を約束するものです。大学にとっても安定した資金が得られるので、とても魅力的です。最も簡素化された研究評価の中で、専門分野は四つのアウトプットを求められます。それをパネルが四つのカテゴリーに分けます。

私たちは、それを四つ星と呼んでいます。星四つは、世界をリードする研究です。イギリスの研究は、世界をリードしています。その次は国際的な競争力のある研究、その次が国内での競争力がある研究です。基本的には、この四つ星のシステムで評価しています。これは簡単なものでして、星をたくさん集めたところに補助金が行くことになっています。フォーミュラですが、これをもとにして計算をしています。この補助金は、星の数と比例します。34の学際分野が集まって評価をするわけです。

補助金の配分と評価の方法

聞き手 補助金は大学単位で配分され、学部単位ではないのですね。

スウィーニー そうです。われわれは34分野での評価を星の数で集めて、フォーミュラを公開しています。どのように成果の評価をしたのかなどの詳細なものを公開しています。どの学部がどのような星を集めたか、何個の星があるのかを公開しています。大学の事務局のほうでは、星がどこの学部で一番多かったのかが分かります。しかしながら、大体の大学は将来に対して投資をします。過去に投資をして、非常に成果が上がった学部は賞を得ます。

配分された資金のうち一部分は、他の分野の将来に対して投資をされます。

例えば、大学のどこに将来の投資をするか、あるいは頑張った学部にあげるかなどと、大学側が決めることができます。これにより、大学自体も投資の計画を立てることができます。自身の強みが分かって、改善の余地も分かるわけです。私が大学にいた頃は、音楽学部に多くの投資をしました。後にこれはイギリスで、ナンバーワンの学部になりました。評判が上がったことで星も集めて、補助金をもらいました。この補助金の一部を生物学部にも投資をしました。結果的に生物学部も非常に成功しました。次の研究評価では、評価が上がったのです。研究評価の後に、大学はどのような投資をするべきかを考えます。時には、この学部や分野には投資をしないでおこうと判断するかもしれない。これは皆さんが本当に真剣に行っているような研究評価です。しかしながら、大学はどのような形で判断をするのか。

いろいろな意見がありますが、簡単なメトリクス（指標）で個人の研究の質を判断します。これは研究や研究者に対する判断をアウトソーシングしているとの懸念があります。例えば、学術出版社にアウトソーシングしてしまっているということになり、良くないとの意見もあります。学問分野の判断は、大学が行うべきであるとの意見も根強いです。大学の中には、世の中に論文がまだ公表されていない研究でも、素晴らしい質のものがあります。学部レベルのものがありますので、大学自身が強みなどを判断できるようなツールを用意すべきです。

池田 英国ではこの評価を始めてから長い時間が経ちました。今は7年ごとにREFがあり、その前にはRAEもありました。ご自身もこのお役目に就いてから10年以上が経ったとのことですが、この10年を振り返ってどうお考えですか。評価によって英国の研究はよくなったと断言できますか？ ご意見を聞かせてください。

スウィーニー イギリスの研究の質は疑いようがなく、ここ30年で非常に良くなっています。これは大学にインセンティブが非常に効いているわけです。また、職員を国内や国外から雇うことができ、研究をサポートできます。プロジェクトシステムもちゃんとうまくいっています。これはパフォーマンスベースの補助金システムと、プロジェクトの補助金の組み合わせです。これはどこ

の国でも同じようなもので、日本ともとても似ているシステムです。この組み合わせが正しいインセンティブを大学に与えて、大学の強化につながっています。

REF2021で変わること

聞き手 次の質問に移ります。先ほど既にREFのことについてお話しされましたが、REF2021はどのように変わりますか。前のものと、どのように違うのでしょうか。なぜ、変える必要があるかをお話してください。

スウィーニー まずは第一に政府からの要請で、ピアレビューをかなり厳しくしています。また、世界銀行のメンバーがイギリス国内の元大学副学長でもあります。学会につながりもあって、学問的にも造詣が深いです。この新しいシステムの課題に対応するようにと要請をされました。インパクトの部分については、非常に賛同してくれていますが、研究の中身にもっと注視せよとのことです。

例えば、一つの文献を取り上げますと、そのインパクトがどのようなプロセスを経て、社会に浸透していくのかをはっきりとさせる。これはレバーを引いて、ボタンを押して、インパクトが伝わるような単純なものではありません。このようなものをどのようにして集めて、社会的なイノベーションを起こすのか。より深くインパクトの部分を見えています。

ある大学を選び、その大学で非常にアクティブな研究評価をしました。やはり、非常にプレッシャーがかかったでしょう。判断は、ピアレビューを大学がするようにしました。つまりは、研究の責任者全員がアウトプットを出す研究評価です。小さい規模のものもありますが、文献のアウトプットが大体、20万。そのアウトプットを1000人で評価しています。非常に大変な作業です。

聞き手 大変な作業ですね。

スウィーニー そうです。一人一人のアウトプットの数を一応は制限していて、前回と同じにしました。1人あたり、平均2.5個の提出です。査読の総数は前回と同じような数でしています。他の変更は、規則や手順にまつわるものです。例えば、長くディスカッションをしているのは、大学を移る学者の成果です。元の大学が持つのか。これから行く大学が持つのか。これはいろいろな意

見がありますが、大体は元の大学が持つことになるかもしれません。

また、外国の研究を入れるかどうかです。海外での研究を入れるべきかについてはノーですが、例えば熱帯医学に関しては、イギリスでは必要です。それは外国で行った研究も入れるべきだと考えています。

聞き手 自然科学の部分と社会科学の部分を含む心理学はどのように評価するのですか？

スウィーニー 両者をミックスした評価になります。

聞き手 自然科学と社会科学では基準が違いますか。

スウィーニー 金銭的な違いだけです。同じメカニズムを両方に使うことが、原理原則です。医学や材料科学のほうが、人文社会科学よりも重要というわけではありません。もちろんコストは違ってきます。コストの重み付けはしていますが、補助金の計算は研究の量とコストの重み付けで判断をします。質は、大きな差を生みません。例えば、物理と化学の質的な差は、微細なものと判断します。

物理研究が化学より強いものならば、補助金は物理が多少は多くなりますが、これは学問分野の違いを見る研究評価ではありません。学際的なものを横断して、大学を比較評価するものです。一つの理由として、この研究評価の意見には、さまざまな指摘があります。このピアレビューには今、専門家の判断を入れることをしています。パネルメンバーがルールを決めます。

いったんルールを決めたら、そのように判断をします。いったんルールができると、研究評価を学問分野ごとに行っていきます。私たちの仕事としては、ルールがちゃんと守られているかを見るだけです。例えば、物理は物理学者が判断をして、心理学は心理学者が判断するので、非常に信頼性が高いです。

聞き手 専門分野内で評価をするわけですか。

スウィーニー そうです。基準は、学問分野ごとに多少は違うことはあります。例えば、人文科学のインパクトの評価と、医学での何人分の人命を救ったかの評価は違います。この場合の判断の基準は違ってきて、何人かの評価は非常に簡単な評価かもしれませんが、さまざまなセットの基準があって、パネルが判断をします。人文科学は一貫性を持って、適応されるべきです。全体的な基準

があって、個々のパネルグループが基準を決める場合もあります。そのパネルは個々の違いはあっても、一貫して同じルールを適応します。

REF2021での人文・社会科学の課題

聞き手 最後の質問です。すでに触れていた内容ですが、REF2021での人文社会科学の課題はなんでしょうか。

スウィーニー 私が思うには、特に課題はないです。それは研究評価をして、インパクトも入れました。インパクトを測ることは、難しいのではないかとの懸念はありました。様々な懸念はありましたが、結果としては行ってみると、非常にうまくできたと考えています。原理原則は、全てのケーススタディーを発表することです。つまりは、商業上の問題がないものは発表しました。セキュリティなどです。大体のケーススタディーは、発表をしました。

皆さんも読んでもらうと、ケーススタディーがどのように評価されているか、それに加えて、インパクトをいかにうまく評価しているかが分かります。今回は、非常に簡単でした。それは前のものを閲覧して、そこから改善するわけです。前回の研究評価から多くのワークショップもしました。そこで私たちは話し合いをするわけです。われわれの人文科学の同僚はピアレビューをしっかりとして、そのアプローチを持って、学術論文も発表しました。

大体、3分の1のパネルが研究評価に参加しました。そこから進めていって、新しいアイデアも取り入れました。社会科学も同様です。パネルの中でさまざまな選定をして、それをどのように評価するか。理論と現実とをどのように対比をして、評価するかを始めました。この判断は、パネルの中で行われます。われわれは結果だけを公表します。パネルメンバーのほうにも公表をすると、ここが抜けているなどの指摘があります。そのときには人を新しく入れて、全ての部分をカバーするようにします。

課題は毎回、パネルが来て、話し合いをします。合議で研究評価をします。具体的に学際分野を定めて、その中でアップデートした基準をテストします。テストをした後で基準を決めて、それを守ります。今は、合議の上での研究評価のフェーズにきています。これは何度も行っていますが、原理原則は変わっ

ていません。しかしながら、解釈は変わってきます。

これは毎回、変わるものです。パネルのほうは、さまざまな意見があります。それはグラントのほうも一緒に、いろいろな意見があります。例えば、このような分野がいいのではないか？それは時代の流れもあります。

マネジメントの分野で一回、物議を醸したものがありました。論文が秀逸とのことで、アメリカの学術誌に発表しろとプレッシャーがかかりました。特にイギリスの政策担当者は、その学問分野の中でアメリカ学術誌への慎重論があったわけです。イギリスのマネジメント研究の質や差別化に対して阻害になり得るとの懸念を持っていました。しかしながら、この問題に関して、パネルは独立性を保って判断をしました。ディスカッションをして、審議をして、基準も見て、評価もしました。外のプレッシャーとは関係なく判断をしたわけです。

聞き手 基準、手順、判断は研究者の手中にあるわけですか。つまりは、パネルの方が決めるわけですか。

スウィーニー そうです。

聞き手 つまり、研究者は評価に対してオーナーシップを持っているわけですか。

スウィーニー そうです。それで良い成果がたくさん出ます。私が2008年に提出した資料ですが、パネルからすると新規性がないとのことでした。いい研究でしたが、彼らの判断ではオリジナル性に欠けていると判断をされました。それは不幸なことに駄目でした。大学のほうとしても判断をするわけですが、その研究を続けることにしてくれました。

次のピアレビューのときには、非常に評価が高かったので幸いでした。それは投資を続けてくれたからです。パネルは、彼らの意見を持っています。これは正しいか悪いかではありません。ピアレビューのパネルがあって、判断をするわけです。しかしながら、多くのパネルが意見を言うことは避けたいと思います。ありがとうございます。

聞き手 さまざまなことを教えていただきまして、ありがとうございました。